



## 日本とイギリスの自転車利用の違いについて



刈谷支部の小林敦子事務長が、イギリス訪問で見た現地の自転車利用とヘルメット着用状況について感じた日本との違いをまとめていただきましたのでご紹介します。



令和5年4月から、努力義務化された全年齢自転車乗車中のヘルメット着用率は、**県全体で13.8%、三河では17.6%**(令和6年7月時点)。一方、イギリス・ロンドンでは、ヘルメット着用が義務付けされていないにも関わらず、**60.9%が着用**しており、**この違いは何なのか**考えてみました。



### ① 自転車の形状の違いとスピード重視

日本ではシティーサイクル、いわゆるママチャリが多く走っているのに対し、ロンドンではスピード重視のロードバイクやマウンテンバイクが主流となっています。

### ② 車道走行と決められ危険性が高い

日本と同じ左側通行ですが、必ず車道を走らなければなりません。そのため、二階建バス等の車の真横を走ることになり、非常に危険を伴います。

### ③ ヘルメット着用に忌避感がない

日本人と髪質が違うこともあるのか、ヘルメットに対する忌避感が少ないと言われています。

### ④ ヘルメットの置き場に困らない

ロンドンを含め、ヨーロッパの自転車利用者は、家から会社・学校まで移動することがほとんどです。自転車のみで目的地に着くため、脱いだヘルメットを抱えて移動する必要もありません。日本のように駅まで自転車を利用することは少なく、自転車の使い方も違うようです。

交通ルールや生活環境の違いがあるものの、交通安全や事故防止に対する個々の思いは世界中で共通していると感じましたし、日本でもできるだけ多くの方が安全意識を持ち、より安全な社会を目指してほしいと思いました。

※皆さんも、話題があればお知らせください。